

地域医療連携だより

かまんざ



② 新年のご挨拶

院長 魚嶋 伸彦

地域医療連携・入退院支援室長 副院長 永金 義成

③ 令和7年度 京都第二赤十字病院 高度救命救急センター地域連携フォーラム

④ 手術支援ロボット「Da Vinci 5」を導入しました

⑤ 新たな医師が着任しました 整形外科 南昌孝

⑥ お知らせ

当日紹介・予約・診療に関するお問い合わせ

地域医療連携係 TEL 075-212-6186

平日 8:30～19:30
土曜日 9:00～13:00

新年のご挨拶

京都第二赤十字病院は今年100周年を迎えます



院長
魚嶋 伸彦

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。
当院は、大正15年に日本赤十字社京都支部療院として開設されて以来、千年の都・京都の中心で地域の皆さまと共に歩み続け、本年100周年を迎えます。昭和9年、療院が廃止される方針となった際、地域住民の皆さまの強いご要望により、この地に「京都第二赤十字病院」として残ることとなりました。この出来事こそが、地域と共に生きる当院の原点です。

救急・がん診療をはじめとする高度急性期医療、災害対応や新興感染症への対応など、これまで幾多の困難を乗り越えることができたのは、地域の先生方からの変わらぬご支援と日々のご紹介の賜物であり、厚く御礼申し上げます。

昨年度は、地域医療連携・入退院支援室を中心に、地域の先生方との連携強化に尽力いたしました。京都第一赤十字病院、京都府立医科大学附属病院と共同で導入したWEB予約システムには、京都大学医学部附属病院や京都市立病院も参画し、多くの先生方にご活用いただいております。今後も、さらなる利便性向上に取り組んでまいります。

また、当日緊急受診への対応につきましては、病院全体で「不

応需を減らし、地域に貢献する」という目標を共有し、迅速な受け入れ体制の構築に努めました。依頼件数が増加するなか、不応需率を低下させることができたのは、全診療科・全職員が地域医療の一翼を担う自覚をもって取り組んだ成果にほかなりません。今後も「不応需ゼロ」を目指し、さらなる改善に努めてまいります。各医師会様との症例検討会や救急フォーラムも継続し、学びと協働の場としてより充実させてまいります。

さらに本年は、診療内容の一層の充実にも取り組みます。高度救命救急センターの強化、各診療科と多職種が連携したチーム医療による全人的・きめ細かな高度がん診療の推進に加え、最新鋭の手術支援ロボット「da Vinci 5」の導入により、より低侵襲で質の高い手術を提供いたします。その他の診療分野においても、常に最良の医療をお届けできるよう努力を続けてまいります。

当院は現在、新病院建設をはじめ、デジタル技術の活用、人材育成の強化など、未来を見据えた取り組みを加速させています。これからの100年も「地域から最も信頼され、選んでいただける病院」であり続けるために、先生方との確かな連携が不可欠です。

本年も引き続きご支援・ご指導を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

今年も顔の見える連携を大切に



地域医療連携・
入退院支援室長
副院長
永金 義成

謹んで新春のお慶びを申し上げます。日頃は当院の地域医療連携にご理解と多大なるご協力を賜り、心より御礼申し上げます。先生方や関係職員の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのことと存じます。

2026年の幕開けにあたり、地域医療における当院の役割について思いを新たにしているところでございます。人口構造の変化や医療技術の進歩に加えて、働き方改革や昨今の物価

高騰の影響、さらにはマイナ保険証やマイナ救急といった医療DXの推進など医療を取り巻く環境は目まぐるしく変化しております。しかしながら、いかに環境が変化しても「人の気持ち」は変わらないものであり、地域の医療機関同士の連携においても人と人とのつながり、すなわち「顔の見える関係」を大切にしたい

と考えております。SAKU洛連携(Web予約システム)をはじめとするデジタル化・システム化の中でも、われわれは「顔の見える関係」を重視し、そうして築かれた信頼こそが地域医療連携をより強固なものにすると信じています。今年も直接言葉を交わし、相互理解を深める機会として、病病・病診連携懇話会や症例検討会を予定しておりますので、ご参集いただければ幸いです。

昨年も多くの患者さんをご紹介いただきましたこと、この場をお借りして深く感謝申し上げます。診療を託していただくからには「質の高い医療」を提供することが当院の責務であると認識しております。各診療科が高度で専門的な診断・治療を行い、通院や入院する患者さんに「やすらぎ」と「幸せ」を届けられるよう、職員一同、研鑽を積んでまいります。

2026年が皆様にとって素晴らしい一年となりますようお祈り申し上げますとともに、本年も変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう、何とぞよろしくお願い申し上げます。

令和7年度

京都第二赤十字病院 高度救命救急センター 地域連携フォーラム を開催しました

救急・集中治療科部長 成宮 博理

2025年11月1日、高度救命救急センター地域連携フォーラムを京都ガーデンパレスにて行いました。当院は2024年4月に京都市内で唯一の高度救命救急センターに指定され、重症患者の急性期治療を専門に担う救急医療を提供することはもちろんのこと、地域の病院や医院との連携を強固に図るべく、近隣医療機関の先生方や救急医療に携わる多職種の職員をお招きして開催しました。本フォーラムは2025年で3回目の開催となり、講演会では救急・集中治療科部長の成宮から「救急部門の取り組みについて」と題して、救急患者の受け入れ体制や脳死判定の対応などについてお話しさせていただきました。脳神経内科の徳田副部長からは「転院搬送を経て脳血栓回収療法を施行した脳主幹動脈閉塞症の一例」を取り上げ、他院からの転院搬送症例について実際の治療動画を示しながら紹介させていただきました。続いて、初療室の甲斐沼看護係長からは「初療室における看護体制について」と題して、専門資格を有するスタッフが多職種で連携し、安全かつ迅速な治療体制を看護師の視点からお話しさせていただきました。その後、地域医療連携・入退院支援課の田淵課長からは、前方連携では医療機関から当日緊急紹介の現状、後方連携では下り搬送の現状についてお話しさせていただきました。

パネルディスカッションでは、パネリストとして京都鞍馬口医療センター 外科部長の吉川徹二先生、洛和会音羽病院 救命救急センター・京都ER副部長の宮前伸啓先生をお招きして内・外因性疾患の症例をそれぞれ提示し、活発な議論を展開いただきました。

その後の懇親会では約90分にわたり歓談の場を設け、総勢約70名の方にお越しいただき盛大に終えることができました。

高度救命救急センターの使命である三次救急を円滑に行う上で、地域の医療機関との密な連携は不可欠であります。本フォーラムで課題などを共有することで質の高い医療を提供できるように努めてまいりますので、今後ともご指導を何とぞよろしくお願いいたします。



講演会の様子



パネルディスカッション

式次第

第1部 ●15:00～

1.開会挨拶

京都第二赤十字病院 院長 魚嶋 伸彦(5分)

2.講演

講演①『京都第二赤十字病院 救急部門の取り組み』(10分)
救急・集中治療科部長 成宮 博理

講演②『転院搬送を経て脳血栓回収療法を施行した
脳主幹動脈閉塞症の一例』(20分)
脳神経内科副部長 徳田 直輝

講演③『初療室における看護体制について』(15分)
初療室係長 甲斐沼 靖大

講演④『当院における地域医療連携現状報告』(10分)
地域医療連携・入退院支援課長 田淵 宏政

休憩(10分)

第2部 ●16:10～

3.パネルディスカッション(45分)

座 長：京都第二赤十字病院
救急・集中治療科 部長 成宮 博理

テ ー マ：症例検討会『内・外因性疾患の症例について』
①内因性疾患の一例 ②外因性疾患の一例

パネリスト：京都鞍馬口医療センター
外科部長 吉川 徹二先生
洛和会音羽病院
救命救急センター・京都ER副部長 宮前 伸啓 先生
京都第二赤十字病院
初期診療・ACS科 副部長 荒井 裕介
京都第二赤十字病院
初期診療・ACS科 副部長 中村 嘉

4.閉会の挨拶

京都第二赤十字病院 副院長 永金 義成



手術支援ロボット「Da Vinci 5」導入

京都・滋賀エリア

初導入

低侵襲かつ安全性の高い 外科手術を実現

当院では、2025年10月より最新の手術支援ロボットシステム「Da Vinci 5(ダ・ヴィンチ5)」を導入し、より高精度で安全性の高い低侵襲手術の提供を開始しました。Da Vinci 5は、Intuitive Surgical社が開発した最新世代モデルで、従来機種から大幅に進化した操作性と視認性を備えています。

特に注目すべき特徴が、シリーズとして初めて搭載された「力覚フィードバック(Force Feedback)」機能です。これにより術者は、鉗子の先端が組織に触れた際の力の強弱を“触覚”として感じ取ることができ、より繊細で丁寧な操作が可能となりました。加えて、視野の解像度が向上した新しい3D

低侵襲ロボット手術センター長
泌尿器科 副部長

山田 剛司



映像システムは、術野をより鮮明かつ立体的に映し出し、正確な判断と精緻な動作をサポートします。こうした革新的な技術は、患者さんの身体への負担軽減、出血量の抑制、術後の痛みの軽減、早期回復といった、低侵襲手術の利点をさらに高めることが期待されています。

当院では、この最先端システムの導入を通じて、地域の皆さまに高度医療をより身近に提供できる体制を整えました。

今後も安全性と質の向上を目指し、最新技術の積極的な導入と専門スタッフの育成に努め、患者さん一人ひとりに最適な医療を提供したいと考えております。



最新の「Da Vinci 5」は、改良された4K 3Dビジョンにより鮮明な立体映像を提供し、わずかな血管や神経も見逃さない視野を実現。さらに、力覚フィードバック機能により術者は力加減を感じながら操作でき、より安全な手術が可能になります。新しいインストゥルメント設計は操作性を高め、より繊細な縫合や切除が可能となりました。

Da Vinci 5
活用予定

泌尿器科／消化器外科／婦人科／呼吸器外科

2025年10月26日
「Da Vinci 5」導入!!

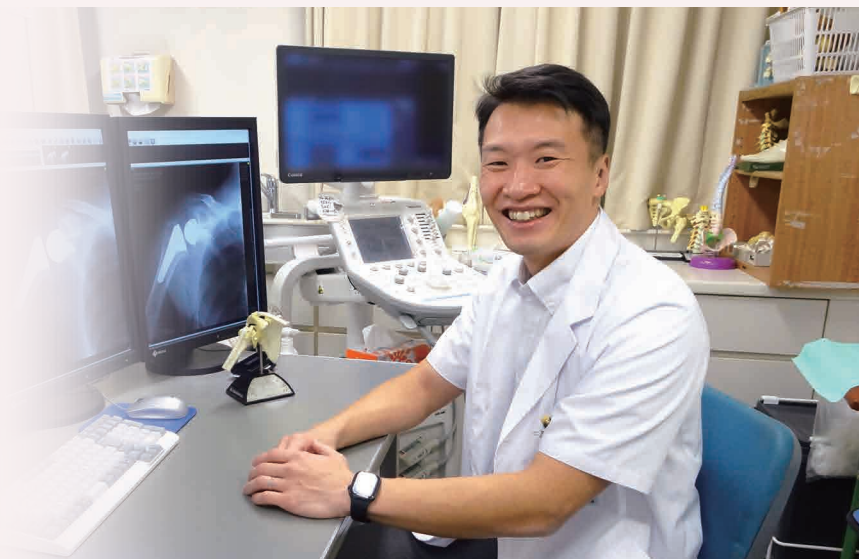


術後の回復期間短縮や
合併症リスク低減を通じ、
地域の皆さまへ先進的で
安心できる医療を提供します



着 任 の 知 ら せ

整形外科
(肩・肘関節外科) 医師



整形外科 みなみ 南 まさたか 昌孝

2025年10月より、整形外科に着任しました南 昌孝と申します。

これまで一般整形外科に加え、肩・肘関節疾患を専門にトレーニングを積んでまいりました。

肩や肘などの上肢の機能障害は、整形外科のなかでは脊椎や下肢に比べ比較的マイナーな分野ですが、日常生活動作(ADL)に深く関わり生活の質(QOL)に大きく影響します。洗髪・洗顔・食事・更衣などがその代表です。

そのため、エビデンスに基づいた標準的な治療をベースにしながらも、患者さんの年齢・生活背景・スポーツも含めた趣味・日常生活動作で求めるニーズなどをしっかり聞き相談をして、患者さんごとに最適な治療方針を決定できるよう心がけています。

診断には単純レントゲンやCT、MRIに加えて超音波検査を積極的に取り入れています。動的な評価も可能ですし、痛みの場所を特定して超音波検査下に注射するのもも有用です。な

により患者さんの目の前で、リアルタイムに動きを見せながら説明できることで、患者さんにとっても納得感を得やすいのではないかと考えています。

肩関節の代表的な疾患である腱板断裂の診断にも超音波検査が有用です。腱板は上腕骨を肩甲骨に安定させ、運動させるために重要な役割を果たしています。中高年の肩の痛みや上げにくさを、四十肩・五十肩と思って放置していたら実は腱板断裂だったというのはよくあるケースです。半数近くがリハビリテーションで改善しますが、なかには手術が必要な患者さんもいらっしゃいます。手術は関節鏡を用いた腱板修復術が一般的ですが、重症例などではリバース型人工肩関節という2014年に日本に上陸した特殊な人工関節置換術が有用です。[「あのカタももしかしたら…」](#)と心当たりがあれば一度お気軽にご相談ください。

地域の先生方には引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

専門分野

- 肩・肘関節外科
- スポーツ整形

資格

- 日本整形外科学会 専門医、認定スポーツ医
- 日本スポーツ協会 スポーツドクター
- リバース型人工肩関節置換術実施医
- 医学博士

略歴

- 2005年 3月 洛星高等学校 卒業
- 2012年 3月 京都府立医科大学 卒業
- 2012年 4月 京都第二赤十字病院 初期臨床研修医
- 2015年 4月 京都府立医科大学大学院入学
- 2019年 3月 同大学院卒業 医学博士取得(骨質を定量的に評価するMRI撮像法の確立)
- 2019年 1月 京都鞍馬口医療センター 医員(原邦夫先生に師事、スポーツ整形外科)
- 2024年 4月 米国メイヨークリニック 客員研究員(O'Driscoll教授に師事、肘バイオメカニクス研究)
- 2025年 4月 十条武田リハビリテーション病院 院長
- 2025年 7月 WBSC U-12野球ワールドカップ チームドクター
- 2025年 10月 京都第二赤十字病院 整形外科 着任(現職)

外来担当日

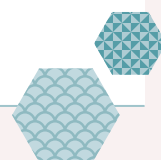
木曜

専門外来(肩・肘)

※左記の日以外でも可能な限り
対応いたします。

金曜

新患外来



令和7年度

第2回「かまんざ症例検討会」開催のお知らせ

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、このたび当院におきましては、かかりつけ医の先生方からご紹介をいただいた疾患を中心とした、症例検討会を開催させていただきたく、ご案内申し上げます。

ご多忙の折、大変恐縮ではございますが、ご参加賜りますよう、宜しく願い申し上げます。



お申し込みは
コチラ!

日時 2026年2月7日(土)
15:00~19:30

場所 京都ブライトンホテル
京都市上京区新町通中立売(御所西)
TEL:075-441-4411

式次第

15:00~ 症例① 十二指腸狭窄の一例



消化器内科
さえき ようすけ
佐伯 洋輔

15:30~ 症例② 頸椎症によるめまいの一例



脳神経内科
にしだ ゆうき
西田 有騎

16:00~ 症例③ 遊離皮弁再建を行った
下肢皮膚軟部組織欠損創の一例



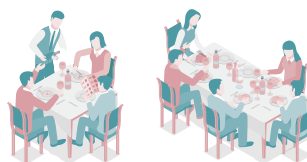
形成外科部長
こいみず じゅんげん
恋水 淳源

16:30~ 症例④ 突然の発熱・せん妄・頭頂部痛を
呈した12歳男児例



小児科部長
かのう げん
加納 原

17:30~ 懇親会



過去の
開催の様子



地域医療連携だより

かまんざ

vol.22 2026.1

＋ 京都第二赤十字病院 地域医療連携・入退院支援室

〒602-8026 京都市上京区釜座通丸太町上ル春帯町355番地の5

TEL 075-212-6186

FAX 075-212-6358

WEB <https://www.kyoto2.jrc.or.jp>